



自分の気持ちで動く

校長 浅見 正 史

朝晩の空気がひんやりと肌に触れるようになり、木々の葉も色づき、校内には秋の風景が広がっています。落ち葉が風に舞い、季節の移ろいを感じる今日この頃、生徒の皆さんはさまざまな行事に全力で取り組んでくれました。10月には、新人体育大会、合唱コンクール、中間テスト、市駅伝競走大会など、行事が盛りだくさんでした。それぞれの場面で、皆さんがその日のために積み重ねてきた努力をしっかりと発揮してくれたことをとても誇らしく思います。今回の経験を糧に、次の目標に向かって、また一歩ずつ進んでいきましょう。

さて、先日、地域の方から「毎朝、掃除ご苦労さま」と声をかけていただきました。その一言が、心にじんわりと染み入り、「また頑張ろう」と思える力になりました。さらに、毎朝、掃除をしてくれる方に「どうして朝早くから掃除をするのですか」と尋ねたところ、「きれいな正門を通して登校してほしいから」と答えてくださいました。その言葉には、深い思いやりと温かさが込められていて、私の心に強く響きました。掃除は、ただ場所をきれいにするだけではありません。そこには、その人の心が表れます。どんな気持ちで掃除をするかが、その人の姿勢や思いやりを映し出すのです。誰かに言われたからやるのではなく、自分の気持ちから動くことの大切さを、改めて教えていただいた気がしました。

「自分の気持ちで動く」といえば、10月26日（日）に開催された「2025・中部地区 られあいのつどい 三世代交流」に、東中の生徒がボランティアとして参加してくれました。前日の会場設営に8名、当日のお手伝いに16名が参加し、地域の方々と一緒に温かな時間を過ごしました。この催しは、子どもからご年配の方まで、幅広い世代が一堂に会する楽しい交流の場です。小・中学校の吹奏楽演奏、ゲームコーナー、ペン作り、お楽しみ抽選会など、笑顔あふれる内容が盛りだくさんでした。中学生たちは、ゲームやペン作りを一緒に楽しんだり、抽選会で景品を配ったりと大活躍でした。実行委員の方々からも、感謝の言葉をたくさんいただきました。中学校ではなかなか経験できない、世代を超えた交流の場で、自分の気持ちで参加した生徒たちは、きっと心に残る何かを得たことでしょう。人と関わることで生まれる気づきや感動は、何にも代えがたい宝物です。



この他にも、社会福祉協議会主催の会食サービスや地域の運動会など、ボランティア活動に参加する生徒もいます。自分の時間を誰かの喜びのために使うことは、心の成長につながり、やがて自信となって自分自身を支えてくれるはずです。生徒の皆さん、日々の生活の中にある小さな行動——あいさつ、掃除、ボランティア活動——それらを通して、自分自身の心を磨いてみませんか。行動は心そのものです。自分の気持ちで動くことが、きっとあなたの未来を豊かにしてくれるでしょう。